

スタンドパイプによる消火訓練

今回(10月5日(土)午後1時から)の訓練は、方丈公園(2回目)で実施いたしました。案内の対象世帯数は103軒でした。今回の訓練で関ヶ谷自治会の全世帯を網羅したことになりました。

訓練は天候にも恵まれ、武居益利谷消防所長・消防団(第六分団)の指導を受け実施をし、参加者は付近住民24名(防災VG含む)・消防所・消防団7名計31名でした。

最近の大災害の発生もあり、初めての方の参加も含め皆さま熱心に取り組んでいました。“会社時代の消火訓練を思い出した!”“初めての参加で戸惑ったが教えてもらえれば何とかやれるのでは”とか“また、2回目だが前にも参加し教えてもらったが忘れていたりするので繰り返し訓練が必要”といった声がありました。

今後も引き続き、習熟度をあげるべく訓練を繰り返していきたいと考えています。(防災VG代表 徳岡正彦)



【スタンドパイプ消火訓練 参加感想】

スタンドパイプの訓練に参加しました。消防団スタンドパイプの訓練に参加しました。消防団の皆さまと、防災VGの方々の変わらないご協力に感謝いたします。

今回の訓練は地震などの際に出火した家屋などの“初期消火”のためですが、台風15号と19号による風水害の甚大さが大きく報じられている中、地震だけではなく自然災害に心配の声が上がってきています。

自治会で毎年防災訓練(安否確認訓練)を行っておりますが、実際の災害時、訓練時のような整然とした対応を行えないのではないか、意味があるのかという指摘を受けることもあります。

確かに訓練時のような対応は困難でしょう。しかしだからこそ、できるだけ多くの方が平時に防災に関わり、災害時のライフラインの立て直し方がどうなっているのか知っておくことが、日頃の生活においても安心・安全に繋がるのではないかと思います。

また、一刻を争うような時に傍にいる近所の方との繋がりも、大切なものだとスタンドパイプ消火訓練に参加して感じる今日この頃です。(自治会副会長 岡部靖子)



自然災害で人的被害を左右する“事前の被害把握”と“楽観バイアス”

9月の台風15号、1か月後10月には台風19号、そして間置かずに発生した台風21号の影響による大雨で、関東、特に千葉県や長野県で甚大な被害が発生し「激甚災害」の適用に至りました。台風15号は、“風台風”の様相で、千葉県では電柱がなぎ倒されて長期にわたって「停電」が続き、避難生活をより一層困難にさせました。当地域でもバス通りのユリノキが数本倒れたり、車庫の屋根が飛ばされたという被害がありました。台風19号は“雨台風”で各地の川が氾濫し、予想外の被害がありました。

台風21号の影響で記録的な大雨に見舞われた千葉県で、床上・床下浸水が2000棟近くに上るといわれています。

今回の台風では、大雨による被害を想定したハザードマップと実際の浸水地域がほぼ一致していて、地形や地質、過去の被害からかなり正確に予測されていました。

台風など気象による災害とは異なり、“予想し備えることができる”唯一の災害です。その面では、住居がある地域の「ハザードマップ」でどのような被害がどこまで至るかを把握しておくことがとても大事です。

また、ここまでの人的被害が大きくなったのは“楽観バイアス”が大きかったともいわれています。これは、先日開催された関ヶ谷自治会主催の「細田教授(関東学院教授)の公開講座」でも解説がありました。自分(我が家)は大丈夫、過去にそんな被害がなかった、ニュースで言うほどの被害がないだろう、といった自分に都合の良い“思い込み(そうでありたい)”が災いの元になっているのです。

こうした災害があるたびに、非常持ち出し袋や食料・飲料などの備蓄品の確認、外出時の防災グッズの内容確認、そして隣近所で相互の助け合いなどの話し合い(向こう三軒両隣の共助)を行っておくことをお勧めいたします。災害は自助によって間違いなく「減災」できます。

因みに、金沢区のハザードマップは下記から閲覧してください。

「金沢区防災マップ」で検索。または下記サイトにアクセス。
https://www.city.yokohama.lg.jp/kanazawa/kurashi/bosai_bohan/saigai/joho/bousai_map.html



台風15号で倒壊したゴルフ練習場



台風19号で決壊した千曲川流域

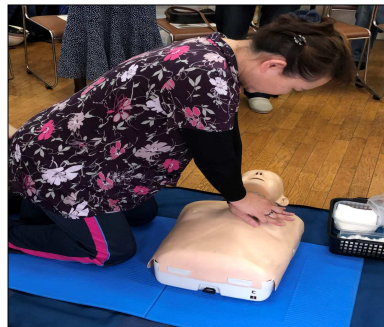
関ヶ谷自治会防災訓練 & AEDの使い方訓練

9月21日(土)9:00~12:00、自治会防災訓練を実施しました。

当日は多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。ニュースなどでもご存知の通り、横浜市は今後30年以内に地震6弱以上の地震発生確率が上昇しており、今まで以上に地震への備えが必要で、“自助力向上”が不可欠となっております。こうした状況を踏まえ、今年度の防災訓練では、1部で「安否確認訓練」、2部で「AEDの使い方訓練」を行いました。

まず1部の「安否確認訓練」では、災害時を想定して、ブロック内での安否確認のあと、地区長、班長の相互連絡の確認を行いました。確認結果としては、タオル/消火器あり:684世帯、タオル/消火器なし・応答あり:205世帯、タオル消火器なし・応答なし:127世帯となりました。今回はじめて安否確認表を用いた訓練ということもあり、頂いたご意見については今後に生かしていきたい思います。

次に2部の「AEDの使い方訓練」では、地区長を中心に45名を超えるご参加を頂き、消防団第6分の方のご指導のもと、AEDの使い方、心臓マッサージ、人工呼吸のやり方を学びました。



訓練では、要救護者の人形を用いて、「救急車への連絡」「心臓マッサージ」「AEDの使用」の3つの役割をローテーションしながら行いました。訓練ならではの細かなポイントを教えていただくとともに、家族が心臓マッサージをして助かった夏山町内会での事例や、地区長の方で実際に会社の同僚を救護された経験談なども伺うことができました。

関ヶ谷自治会防災部
防災ボランティアグループ
発行

地震、豪雨などの自然災害は時と場所を選ばない!

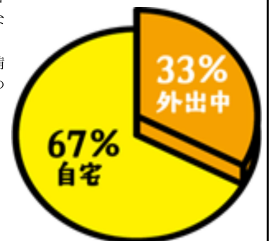
~0次の備え...外出先で被災した時のために、常に持ち歩く備え~

自宅にいる時間は平均で1日16時間程度と言われていて、外出中に被災する確率は30%になります。

だから、普段から外出用防災グッズ(0次の備え)を備え、持ち歩いているかどうかで、自分の命を救うことができるかもしれません。

- ☑ 止血パッド
- ☑ 携帯トイレ(女性は生理用品をプラス)
- ☑ ヘッドライト(両手が自由になって便利)
- ☑ 抗菌剤(傷口を拭いたり、手などを拭いたり)
- ☑ エコバッグ(物資を貰うため)
- ☑ ワセリン(けがの時に止血剤として使える)
- ☑ マスク
- ☑ 携帯電話予備バッテリー(充電コードも)
- ☑ 笛
- ☑ 保温用アルミシート

以上全部で10個の防災グッズがあると備え度が高い。それに加えて、身分を証明するものや、常備薬、エレベーターに閉じ込められる可能性を踏まえて、飲み物、少しの食べ物(缶、チョコレートなど)もあるとよいでしょう。そして、普段から持ち歩くハンカチ(大判)、ポケットティッシュ、冬季は使い捨てカイロが安心感へとつながります。



防災VG総会案内(2019年度)

実施日:2020年1月18日(土) 10時から12時(予定)

場 所:西金沢コミュニティハウス2階多目的室

議 題:2019年度の活動実績、2020年度活動方針、役員選出、提案の審議、分科会討議等



防災クイズ

Q. 30年以内に南海トラフ地震が発生する確率は?

- A. 50~60%
- B. 61~70%
- C. それ以上

答えは裏面にあります。

公開講座「いざ」というときの心理学を受講して

125名参加、初の関東学院大学との関ヶ谷自治会連携

去る10月26日(土)10時より、関東学院大学金沢文庫キャンパス内教室において、関東学院大学社会学部と関ヶ谷自治会の連携企画「いざ」というときの心理学～緊急事態発生!!その時、人はどんな行動を?と題した公開講座が細田教授(関東学院大学社会学部学部長)の講義で約2時間にわたり開催されました。私も関係者、受講者として聴講してきました。

関ヶ谷自治会特別委員会「地域連携協議会(通称“つなぎの会”)」が企画運営した本講座は、関ヶ谷防災部、同防災VG主催、夏山町内会、山の手自治会、パークタウン自治会協賛もあって125名を数える参加者があり、いい意味で参加者の多さにびっくりしました。

講義では、大規模災害や事件に遭遇すると“パニックになる”と言われるが、過去の事例では起きていないという。むしろ「認知バイアス」が働き正常性を継続しようとする傾向があるとのこと。

認知バイアスには、

- ・正常性バイアス: 目の前の異常事態を正常な範囲内と判断する心理
- ・確証バイアス: 自分の都合にあう情報を信じ、反証を信じない心理
- ・帰属バイアス: 他者の行動は、当人の内的属性(性格)に帰属させ、自分の行為は、外的帰属性(環境)に帰属させる心理

その事例の一つとして紹介された「大邱地下鉄放火事件(2003年韓国)で起きた事件では192名死亡、148名負傷者、多数の死傷者が出た要因として「正常性バイアス」が指摘されているようですが、画面で映し出されたが、写真で見ると煙が充満している電車内にいる乗客は、逃げようとしていないで座っています。“取り合えず周りに合わせておこう”という「多数派同調バイアス」が働いたとのこと。



煙が充満しハンカチや手で口と鼻を押さえているが避難しようとしていない。

東日本大震災の好事例として、“釜石の奇跡”として知っている釜石小・中の児童・生徒約3千人が無事に避難できたのは「日ごろの防災訓練(2004年から訓練を行っていた)」のためであり、細田先生が“奇跡”ではなく“軌跡”だと言われ、そうだなと強く感じました。鶴住居小、釜石東中の津波三原則は、原則1: 想定にとらわれるな、原則2: 最善を尽くせ、原則3: 率先して避難せよ、と訓練を受けていて、自分たちで判断し、直ちに行動したことが「奇跡」として語られています。

今回の講座は自治会として初めての取組で、参加者がどれくらい集まるか内心不安でしたが、大勢の方々に参加いただいたのは、つなぎの会のメンバーが忙しい合間を縫って、伝を頼りにチラシを持って色々なサークルや知り合いへの草の根活動、そして自治会においては地区長さんへ参加を働きかけた結果ではなかったでしょうか。本当にご苦労様でした。開催関係者の皆様のご苦労が報われたイベントで、参加者の満足度は86%(非常に満足+満足)、“とても参考になった”という感想で、私も同感でした。細田先生の講義は、滑舌も良く分かりやすい話し方であったという間の2時間でした。

先生が最後に、“今後の課題、今の悩み”の中で、AI社会に大きく舵を切っている中で、アナログ化の重要性を示唆していることは、とても興味深かった。また、“一緒に考えていきませんか”との投げかけは、まさに私達の地域と何かを可能にするメッセージと受け取り、と同時に地域連携協議会の活動に大いなる期待をしています。

(防災VG副代表 和泉 達)

防災ボランティアグループと共に

～民生委員児童委員を辞するに際し～

私達3人(戸次明子、大橋ひろみ、大島房子)は、それぞれ9年、9年、6年の任期を本年12月で終えることになりました。

この関ヶ谷地区の特徴は元気な高齢者が多いこと、しばらくの間この高齢者数1位は継続することでしょう。一人暮らし高齢者の健康寿命への取り組みは大変参考になります。

本自治会の防災ボランティアグループ(以下、防災VG)が組織されたいきさつは、民生委員児童委員3人だけでは、見守りや発災時の避難支援等に対処しきれない、そこで助け合える組織を作っておこうと活動が始まったとのことです。

高齢化がますます進んでいきますが、何とか動けるうちは防災VGに入り、班長や地区長の支えになることが大事なことかと思えます。もちろん我が家と自分の安全確保が第一です。次に外にも共助の目が向けられたらさらに、住みよい関ヶ谷地区になっていきます。是非、一人でも多くの方が防災VGへの加入を頂ければと願っています。

また、毎年行っております10月の高齢者アンケートは、回収率が高めれば高いほど住民全員にとりましても正確な資料となります。協力を宜しくお願い致します。

在任中における皆様のご協力に対し心よりお礼申し上げます。

(民生委員 戸次明子、大橋ひろみ、大島房子)



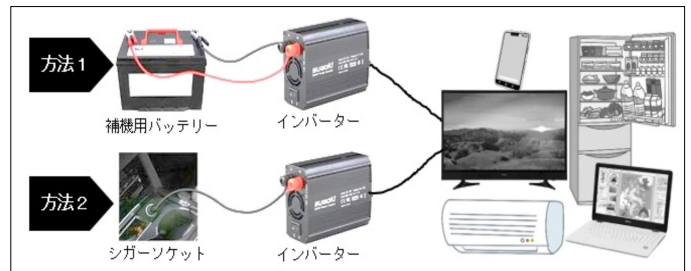
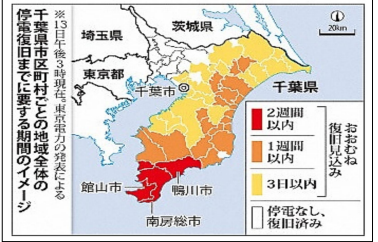
「停電」に備える

(災害で餓死した人はいません。困るのは電気とトイレ)

10月8日の台風15号は、千葉県広範囲にわたって停電が発生し、大きなニュースになりました。停電は、9日午前8時のピーク時に県内約64万軒に及び、自然災害では東日本大震災以降で最大となりました。復旧までに1か月以上を要した地域や家もあり、困難な生活が続いたことが想像できます。

停電は、自分では防ぎようがありませんが、停電時の凌ぎ方の対策は可能です。対策として「①発電機を購入しておく」「②クルマのバッテリーを使う」「③大容量のバッテリーを購入しておく」といった対策の他に、「④ソーラーパネル等で自家発電する」があります。

それぞれ長短があり合わせ技が効果的とは思いますが、費用面や設備面で限られた対策となってしまいます。お勧めは「②クルマのバッテリーを使う」です。クルマのバッテリーは下図の通り扱いが簡単、移動ができる、天気に左右されないなど便利な停電対策です。



1. 補機用バッテリー(ガソリン・ディーゼル車)を使った給電方法

方法1: 補機用バッテリーから「インバーター」を介して各家電を稼働させる

方法2: シガーソケットから「インバーター(シガーソケット内蔵品式もある)」を介して各家電を稼働させる

2. 駆動用バッテリー(EV・HV・PHV車)を使った給電方法

HVやPHV、EVは、クルマに予め電源コンセントが備え付けられているのが一般的です。コンセントに使用したい家電の電源プラグを差し込むだけで稼働させることができます。

車種や使用条件にもよりますが、一般家庭の家電を最大7日間稼働可能です。※詳しくはクルマ購入店に聞いてください。

防災ボランティアグループは、災害時にマイカーを電源供給車(スマホ充電や家電・救命装置等を稼働)としてご協力いただける方を募集しています(我が家を優先してください。余力がある場合のみ給電に協力ください。)。本趣旨に賛同されステッカー(無料配布)をご希望の方は、下記へご連絡ください。

リアナンバープレートの横、又は自宅の車庫や郵便ポスト等に貼ってください。

後ろのナンバープレートの横に貼った例

車庫の柱に貼った例

連絡先: 防災VG 荒木 健治 (13-1) 番 782-4286



防災グッズは定期的に点検を

【訂正】8月15日発行の「防災だより」は、第24号と表示されていましたが、25号の誤りでした。訂正します。

防災クイズの答

正解は「C」です。政府の地震調査委員会によれば、マグニチュード8～9級の大地震の30年以内発生確率は最近では、70～80%に上がっています。対策を怠りなく。